

石川 斉(著)

「筋・骨格系の機能解剖アトラス」

嶋田智明

(神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域教授)

リハビリテーション医療では、運動器疾患に起因する様々な運動機能障害や姿勢・運動異常を扱うが、それを解決する知識・理論体系を構成する最も基本となるものが解剖学や生理学である。しかし、個々の臓器・器官の持つ独自の機能をめぎにした解剖学や生理学の知識だけでは、患者の求める質の高い医療を臨床の場で提供することは決してできない。

機能解剖学は、解剖学が人体構造を主として扱うのに対して、それと不可分の機能との関連性およびその破綻のメカニズムや病態像を扱い研究するものである。そして、理学療法や作業療法で行われる評価・治療の理論背景をなし、「準拠の枠組み」となる重要な学問領域の1つであり、運動学の一分野でもある。本書は、医学的リハビリテーションで対象となる筋骨格系の正常構造・機能や病態を学び、その知識をもとに理学療法・作業療法の専門性の向上に積極的にフィードバックできるよう企画されたものである。

本書は、著者の石川 斉神戸大学名誉教授が神戸大学医学部保健学科で教鞭をとっておられた際に使用した題材をもとに、日常診療で遭遇することの多い問題

(課題)をQ & A形式で構成し、関連する事項とともに理学療法士や作業療法士のために教科書としてまとめられたものである。Question(問題)数は207題に及び、いずれも筋骨格系の機能解剖を理解し、理論根拠に裏打ちされた効果的なリハビリテーション医療を実践する上で重要な項目ばかりである。本書の特徴は、与えられたQuestion1つひとつに対する解答がそれぞれ簡潔に示され、その解説が鮮明な解剖図とともに「贅肉」を削いだ必要最低限の知識として明快に記述されている点である。まるで学生時代、口述試験を受ける際に予想問題を作成し、それぞれの要点を整理した「サブノート」を連想させ、同時に筋骨格系の機能解剖学を学習する楽しさをも提供してくれる。これは永年にわたり臨床医の視点で医学教育に携わってこられた石川先生の技量とお人柄のなせる業であろう。

読者は本書を通して日常臨床で遭遇する多くの筋骨格系に起因する運動機能障害や姿勢・運動異常の病態を、機能解剖学という「ツール」を用いて特定・分析し、さらにそれを解決に導く臨床推論スキルの開発・向上を目指すこともできる。その意味で本書はリハビリテーション医療の場で直面する多くの問題解決にその理論的考察を進める上で、極めて有用な書であると考ええる。

●B5判 220頁 2色刷

定価 5,040 円(本体 4,800 円+税 5%)

2008 年 文光堂・刊